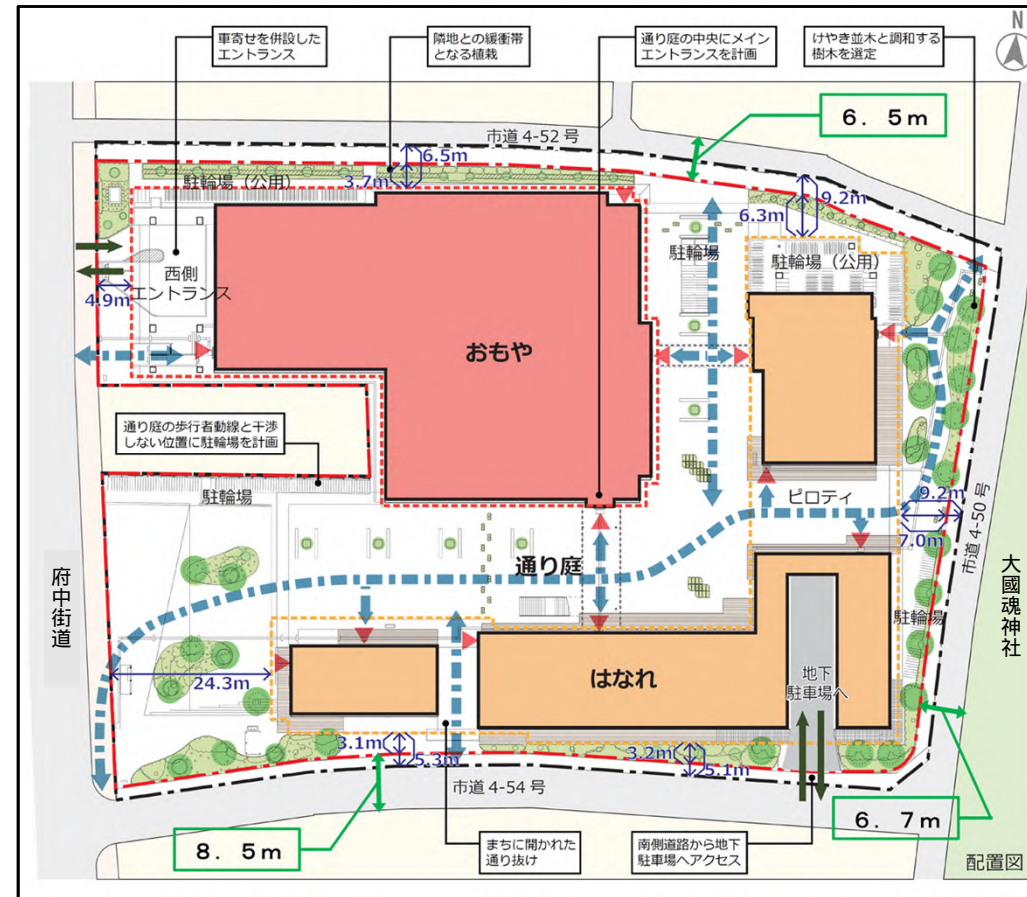


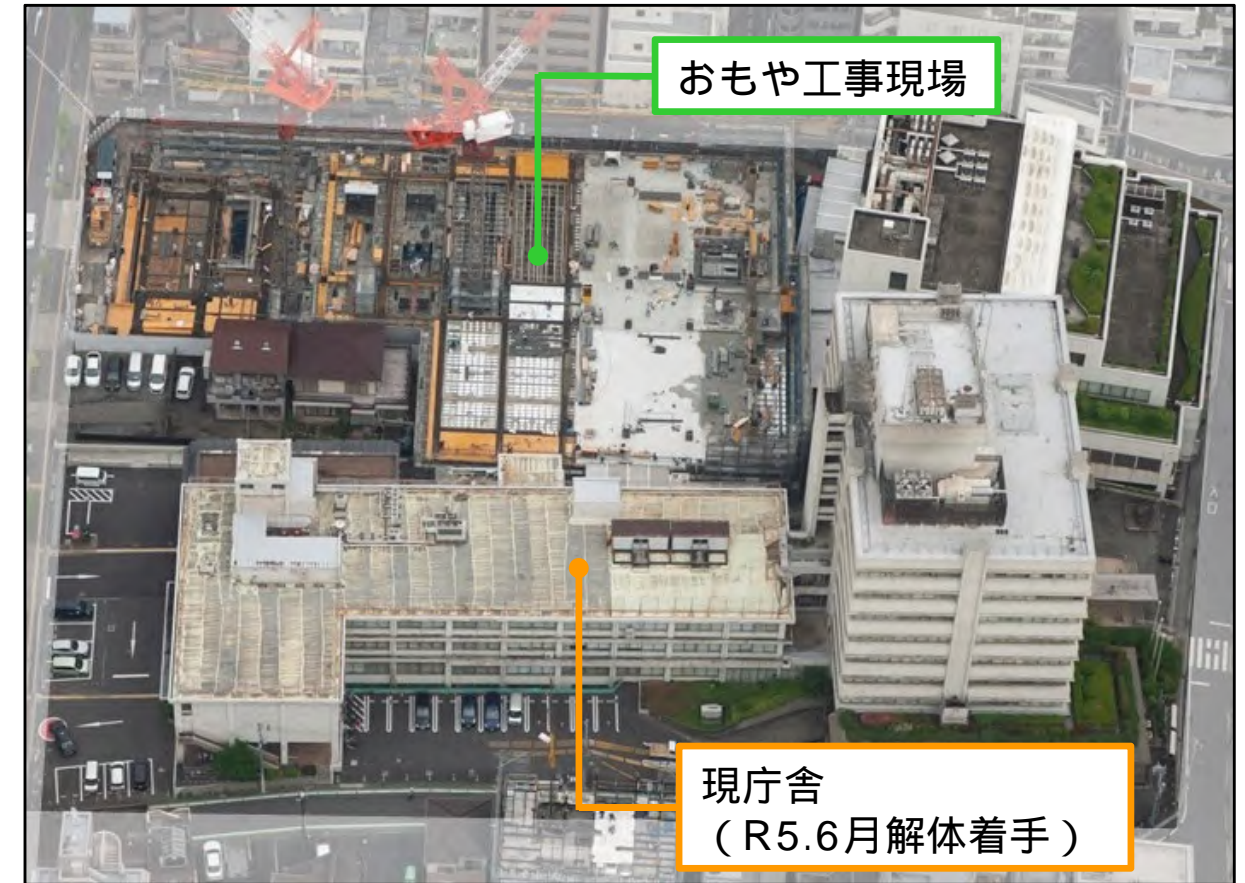
## 【建物概要】

敷地面積	11,064.85㎡
用途	事務所、図書館、店舗、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造(免震構造)
階数	地上6階 地下1階
最高高さ	30.14m
延べ面積	32,362.67㎡
建築面積	6,349.29㎡

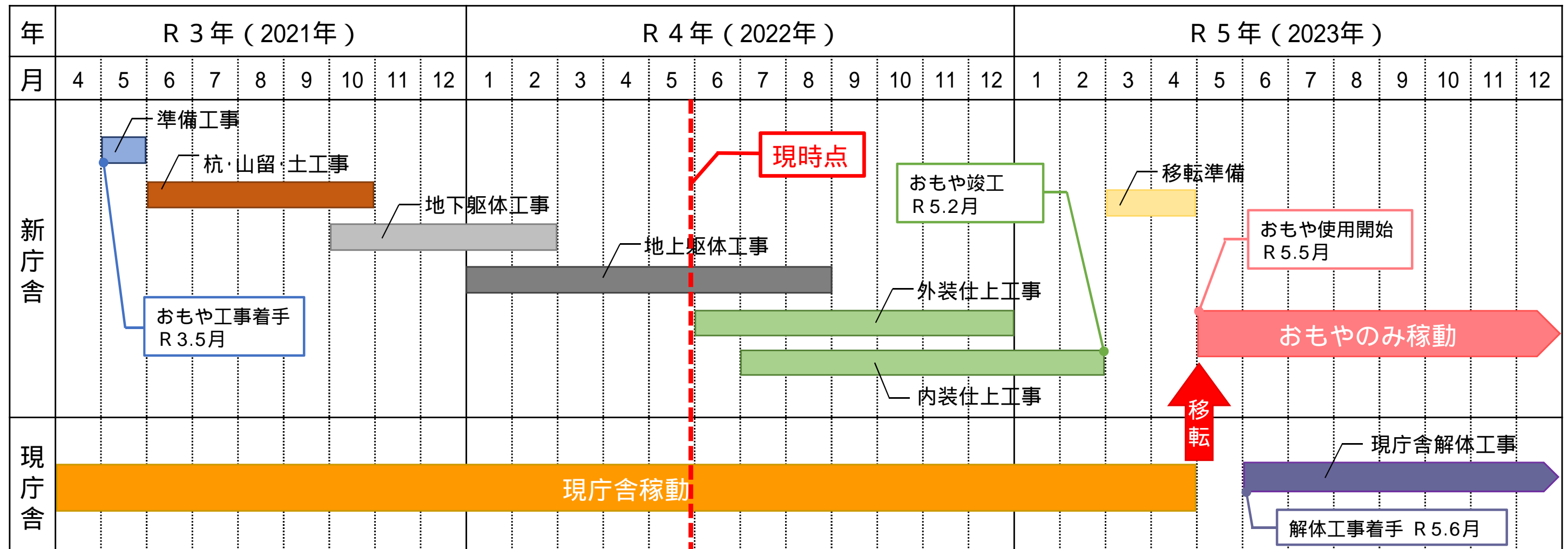
## 【配置計画】



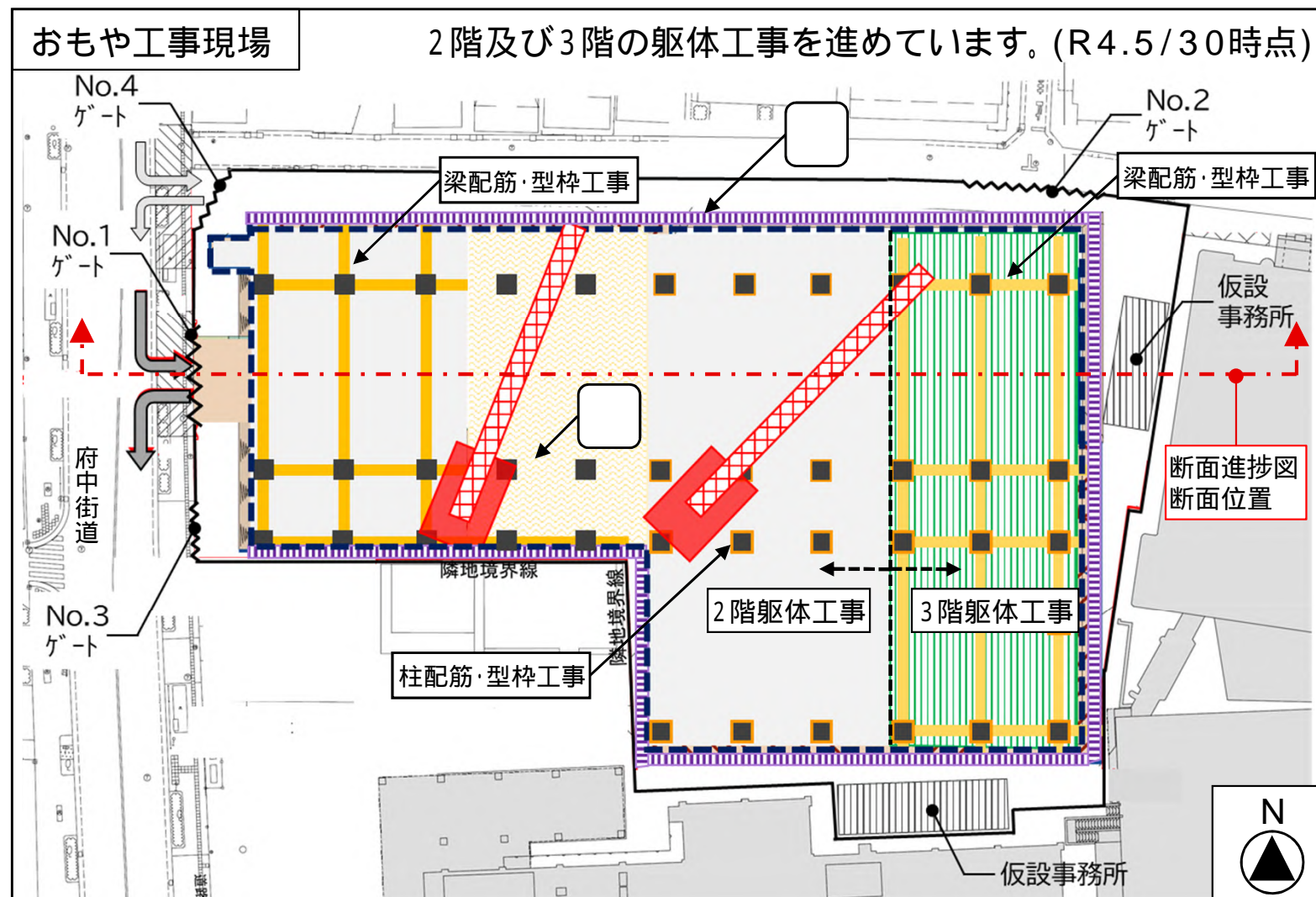
## 【航空写真 (R4.5月17日時点)】



## 【工程表】



## 【平面進捗図】



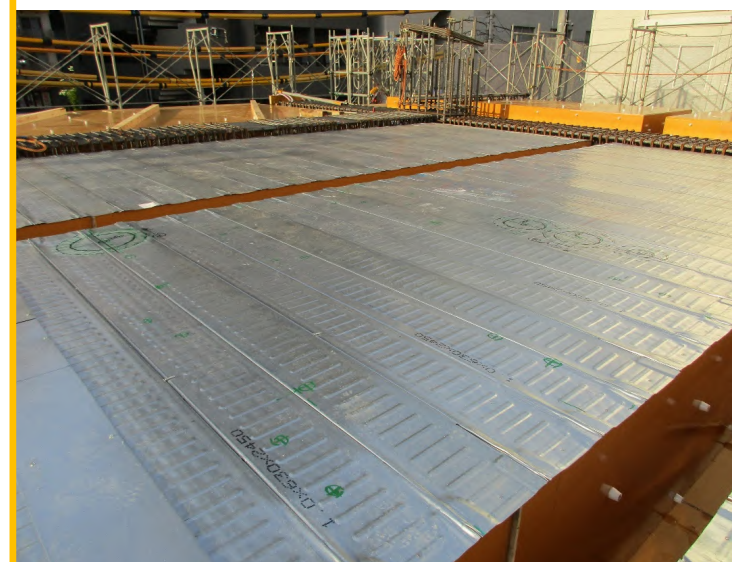
## 型枠工事 (2階床)

### 普通合板型枠



- ・「型枠」は、コンクリートの形をつくるせき板と、それを支える支保工（支柱）で構成しています。
- ・一般的な型枠は、「合板」のせき板を使用しており、作業員が部位に合わせて現場で加工し、組み立てています。コンクリート打設後には、必要な養生期間を経て、手作業で取り外します。

### デッキプレート



- ・「デッキプレート」は、床の型枠材料として使用するだけでなく、建物の構造材としての役割を果たします。工場にて、1.2ミリ厚の亜鉛メッキを加工して製作し、現場で設置しています。
- ・支保工の組立、解体作業を削減し、工期短縮に寄与します。また、仮設廃材の削減により環境にも優しい型枠材です。

### プレキャスト中空床版



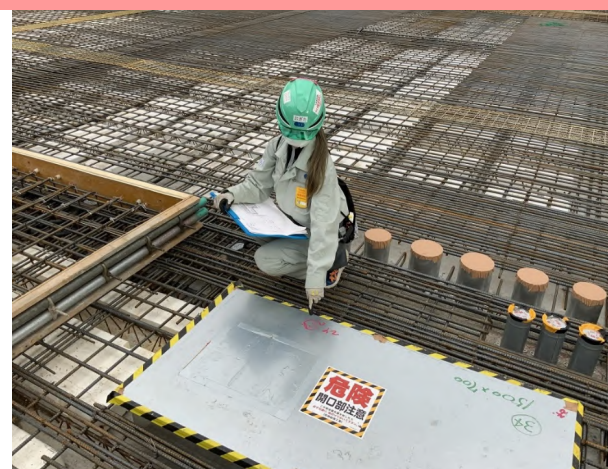
- ・「プレキャスト中空床版」は、発泡ポリスチレン製の型枠を取り付けたコンクリート製のせき板で、現場でのコンクリート打設量を低減し、建物の軽量化を図ります。
- ・おもや工事では、工場で作成した合計250枚（1枚あたり：約2m×6m，約2トン）の床版を、クレーンで1枚ずつ指定の箇所へ設置しています。

## 外部足場組立工事



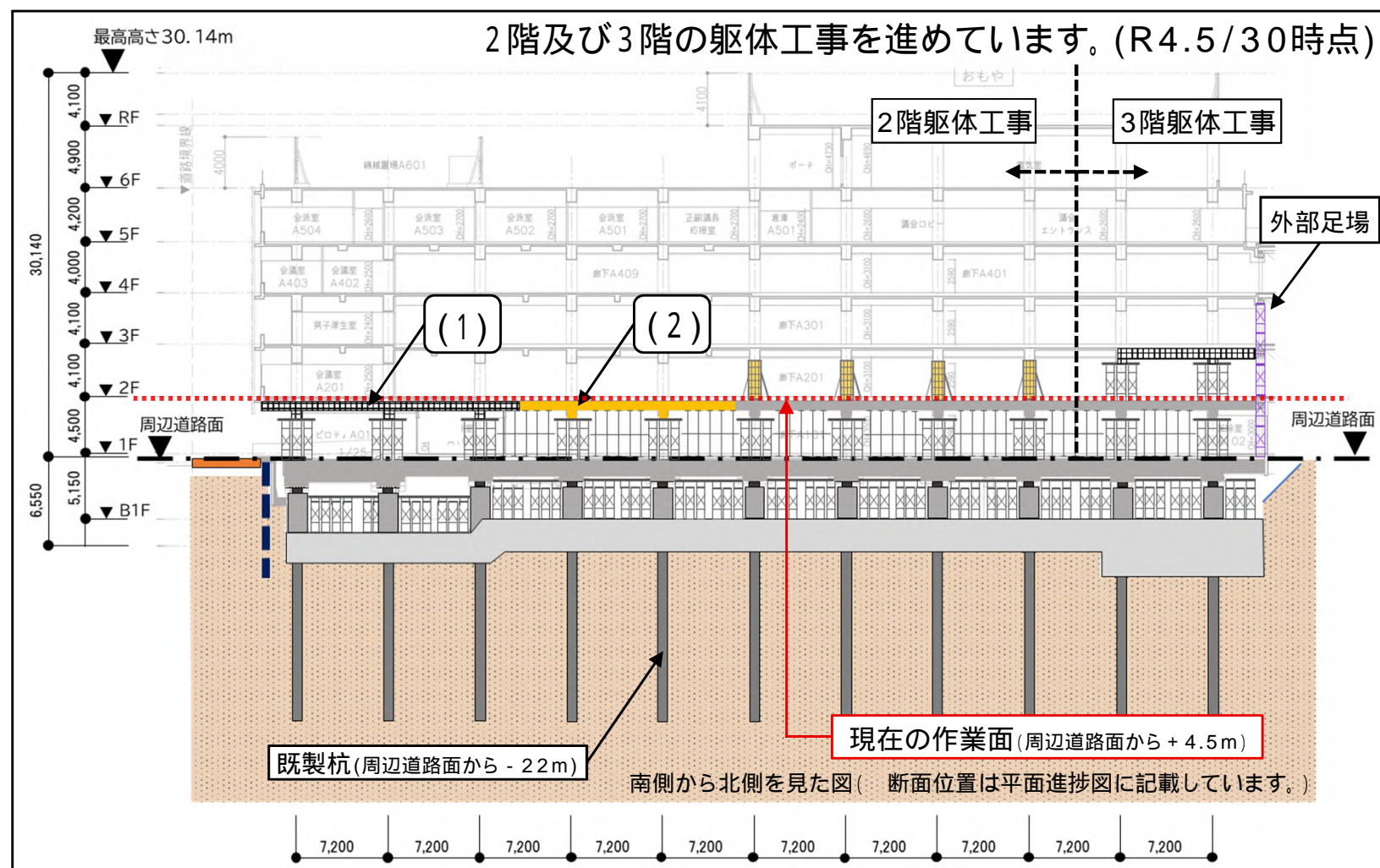
- ・「外部足場」は、今後実施予定の外装工事(外窓・有孔パネル取付等)に使用するため、建物を取り囲むように組み立てています。
- ・今後、躯体工事の進捗に合わせて、6階まで組み立てていくとともに、防音パネルの取付を進めていきます。

## 女性技術者の活躍



- ・建設現場では、多数の男性作業員が働く一方で、女性技術者も活躍しています。
- ・建設業で働く女性を「けんせつ小町」という愛称で呼ぶこともあり、女性視点を活かして、現場の品質や安全管理の向上を図っています。また、女性技術者は直近10年間で約4.4倍に増加しています。

## 【断面進捗図】



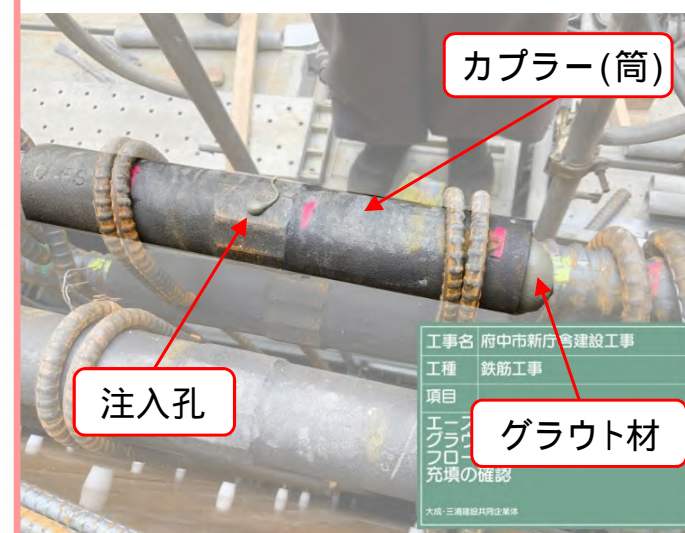
## (1) 鉄筋継手

### 圧接継手



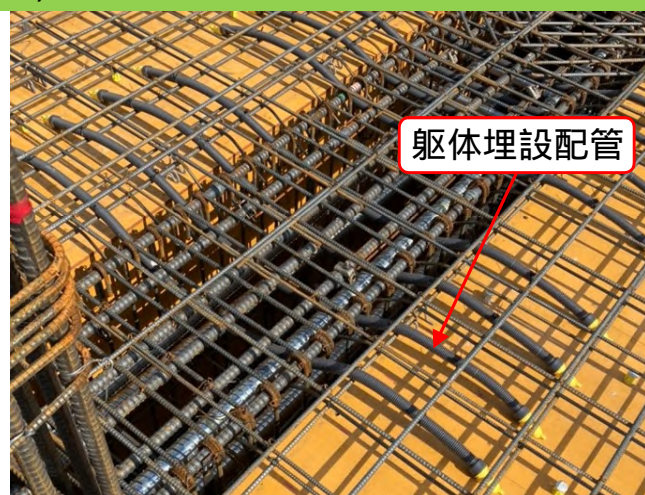
- 鉄筋は、運搬可能な長さで搬入されるため、柱や梁の中で端から端までつながった長い鉄筋が必要な場合、現場でつなぎ合わせて使います。このつなぎ合わせた部分が「継手」で、2種類の工法があります。
- 「圧接継手」は、鉄筋と鉄筋を熱で溶かして接合し、一体化します。圧接部に所定のふくらみを作ることによって通常の鉄筋部より強度が上がります。

### 機械式継手



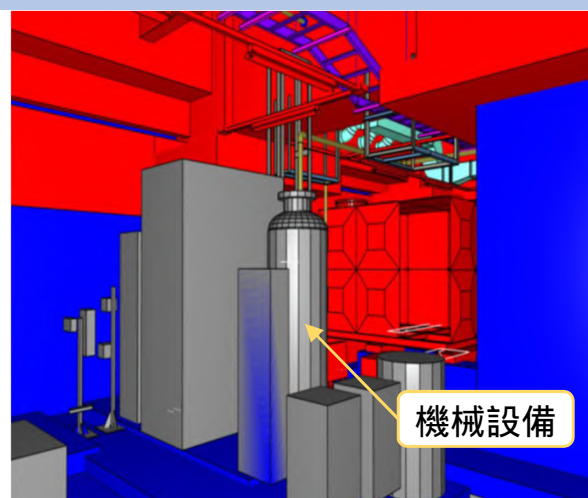
- 「機械式継手」は、「カプラー(筒)」に左右から鉄筋を挿入し、「注入孔」からグラウト材(接着剤)を注入し、固定する工法です。
- この工法は、火を使用する圧接継手とは異なり、天候に左右されず作業を実施することができます。また、比較的容易な作業となるため、施工性が高いといったメリットがあります。

## (2) 躯体埋設配管



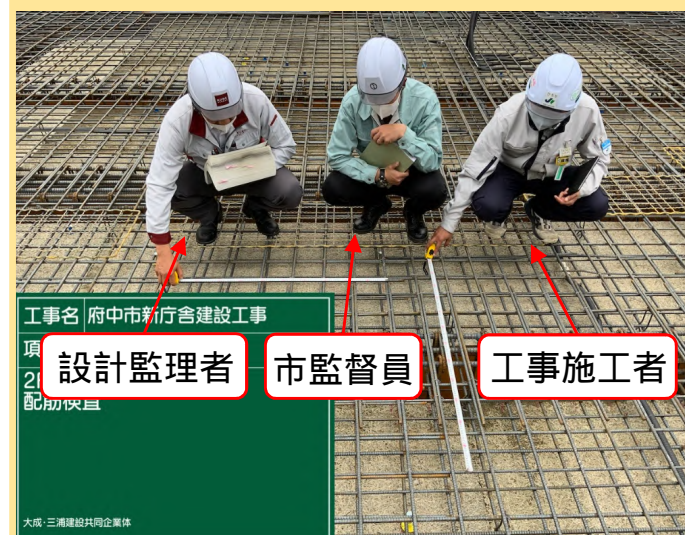
- 照明器具や自動火災報知器などの設備機器には、電気を送る必要があるため、コンクリート打設に先立って「躯体埋設配管」を設置し、その中に配線を行います。
- 配管材には、PF管と呼ばれる合成樹脂製の曲げ易い配管を主に使用しており、配筋内を縫うように敷設しています。

## 💡 3Dデータを活用した施工図



- 現場施工にあたっては、設計図書を更に詳細化した施工図と呼ばれる図面を基に工事を進めます。施工図を作成するにあたり、3D化したデータを活用し、建物に機械設備や配管などが入るかを、立体的に確認しています。

## 💡 配筋検査



- 配筋検査とは、鉄筋工事が完了したあとに、工事施工者以外の第三者(設計監理者、市監督員など)によって行われる検査のことです。
- 設計図書通りに工事が行われているかを第三者が検査することで、施工不良を防ぎ、建物の出来栄や品質を確保します。